

# 第Ⅱ章

## インクルーシブ教育システム推進のために ～多様性に対応した学校づくり～

### \*\*\* 目次 \*\*\*



#### 1 多様性に応じた学級・授業づくり

(1) 多様性を認め合う学級づくり	44
(2) 多様性に応じた授業づくり	46
(3) 多様性を認め合う学級・授業づくりのためのコーディネートアイデア (例)	
① 多様なものの見方・考え方	48
② 一人一人が満足・納得する評価	52
③ 学級全体への配慮～ちょっとした振り返りシート～	54
④ 学びやすい環境を整えて、集中力アップ ～自分の教室環境を振り返ってみませんか?～	56
⑤ 授業中のルール、明確になっていますか? ～子どもが安心して授業に向かうために～	58
⑥ あなたの授業中のルール教えてください	60
⑦ それぞれの「学び方」	62
⑧ 「学び方」を選べる学習の実践例	64
⑨ 自分が得意な勉強の仕方を知ろう!!	66

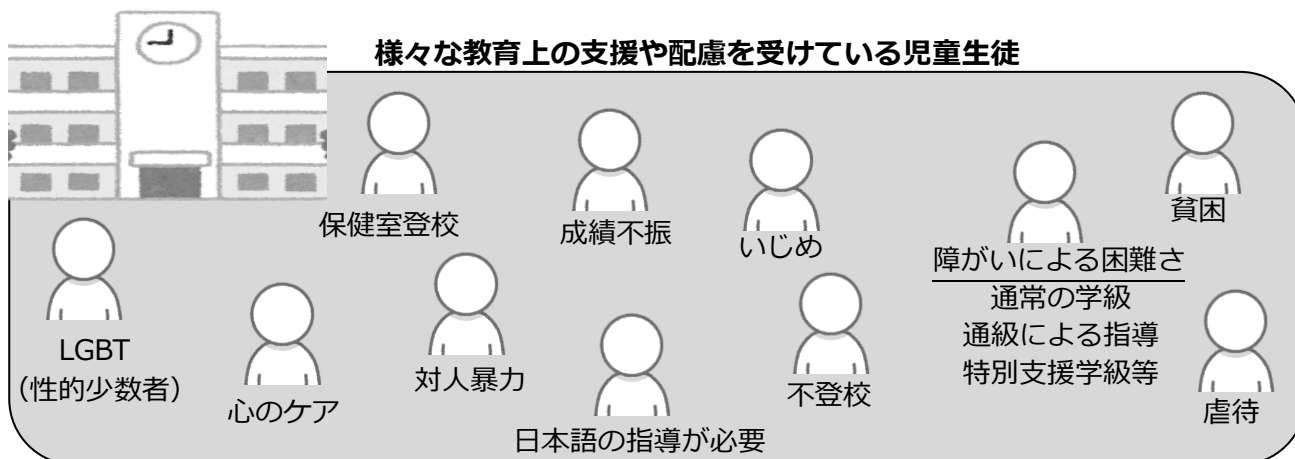
#### 2 全校的な教育支援体制の確立のために

(1) 特別支援教育に関する委員会 (校内委員会) の役割とは	68
(2) 全校的な取り組みのための教職員それぞれの役割	70
(3) 教育上特別の支援を必要とする子どもとは ～特別支援教育の理念と気づきの観点～	72
(4) 気づき、つながりを助けるコーディネートアイデア (例)	
① はじめに! 校内把握シートの種類別の活用方法	74
② 『気になる』児童生徒のための校内把握シート～学級用～	75
③ 『気になる』児童生徒のための校内把握シート～個人用～	77
④ 支援までのステップ (例)	81
⑤ ケース会議の進め方	84

## (1) 多様性を認め合う学級づくり

### (a) 学校にいる多様な子どもたち

地域の小・中学校、高等学校の中には、障がいのある児童生徒だけでなく、様々な教育上の支援や配慮を受けている児童生徒がいます。



【例えば、データから見てみると】

- 小・中学校の通常の学級で、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の割合は 6.0%<sup>\*1</sup>
- 高等学校で、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の割合は 2.4%<sup>\*1</sup>
- 就学援助対象児童生徒の本県の割合は 14.40%<sup>\*2</sup>
- 本県の不登校の児童生徒は 1000 人当たり 16.9 人<sup>\*3</sup> (全国：1000 人当たり 15.1 人)

このような状況においては、「障がいがあるから、支援や配慮をする」のではなく、**「すべての児童生徒に、必要な支援や配慮を行う」という視点が大切になってきます。**

つまり、障がいによる困難さをもっている児童生徒だけでなく、すべての児童生徒とすべての教師の多様性を互いに認め合い、尊重し合う土台が必要となります。

### (b) 多様性に向き合う学級づくりが社会にどうつながるか

ユネスコ・特別なニーズ教育に関する世界会議で採択された「サラマンカ声明」(1994 年) にそのヒントが書かれています。

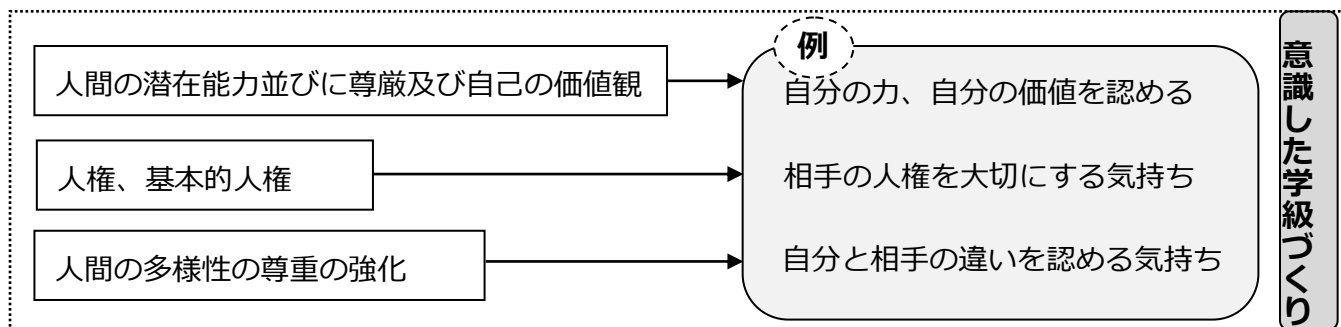
あまりにもしばしば質の低い指導をしたり、教育に対し、「一つの寸法に合わせる」式の考え方を結果としての、希望を粉みじんに打ち砕いたり、資源を浪費することを避けさせることに、児童中心の教育学は助力できる。さらに児童中心の学校は、すべての人びとの相違と尊厳とを尊重する人びと中心の社会を築き上げるための訓練場といえよう。

参考：国立特別支援教育総合研究所「特別支援教育法令等データベース 総則 / 基本法令等 サラマンカ声明」  
 <[http://www.nise.go.jp/blog/2000/05/b1\\_h060600\\_01.html](http://www.nise.go.jp/blog/2000/05/b1_h060600_01.html)>

\* 1：福島県教育委員会「発達障がいの可能性のある児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」(平成 30 年)  
 \* 2：福島県教育委員会「福島県の教育の現状分析-SWOT のバックデータ集-」(平成 29 年)  
 \* 3：福島県教育委員会「頑張る学校応援プラン～ふくしまの挑戦と戦略～」平成 29 年 3 月策定 (令和 2 年 3 月一部改訂)

(c) 障害者権利条約\*4から考える認め合える学級づくりとは

障害者権利条約の第24条(教育)の1(a)の内容から考えると



配慮や支援を認め合える学級・あるがままの自分でいられる学級



お互いを認め合える学級になっていますか？

あるがままの自分でいられる環境の中で、私たちは、自分を肯定的に理解したり、自分にとって必要な支援や配慮を頼んだりしながら、最大限の力を発揮することができます。

(d) 学級づくりに必要な視点は？

国立特別支援教育総合研究所『すべての教員のためのインクルーシブ教育システム構築研修ガイド』ギアース教育新書(平成26年)の中に、学級づくりのポイントは次のように述べられています。

障害の有無に関わらず、教員が多様な子どもたち一人一人の特性や状況を理解し、学級内で適切な人間関係を形成することは、インクルーシブ教育システムを進める上で基本的な土壌となります。

学級づくりの中核的要素としては、「集団づくり・仲間づくり」と「ルールづくり」があげられます。



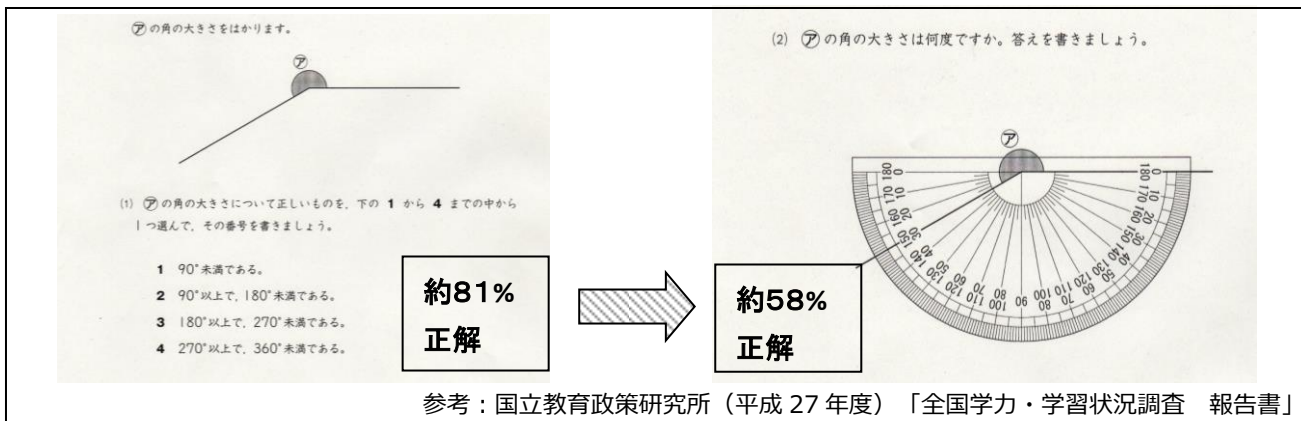
具体的なアイデアや演習等に関しては、『☆多様性を認め合う学級づくり・授業づくりのためのコーディネートアイデア(例)』(48p)をご覧ください。

**「お互いを認め合う」  
当たり前だが、それが実に難しい。**

\*4:「障害者の権利に関する条約」のこと。詳しくは第I章-1(4)⑤『障害者の権利に関する条約』(17p)をご覧ください。

## (2) 多様性に応じた授業づくり

### (a) 子どもたちの多様な学び方



上記の問題では、角の大きさの見当を付けることができますが、分度器を用いて、角の大きさを正確に測ることについては、**学級の半数近くが理解できていない状況**が推察されます。授業中に、友達の答えを写して分かったと思っている子、意味を理解しないままに数字をただ書いている子等、様々な子どもの姿があるのではないのでしょうか。

【子どもたちの学び方をご存知ですか？】

教科書や黒板、手本を見て分かった子

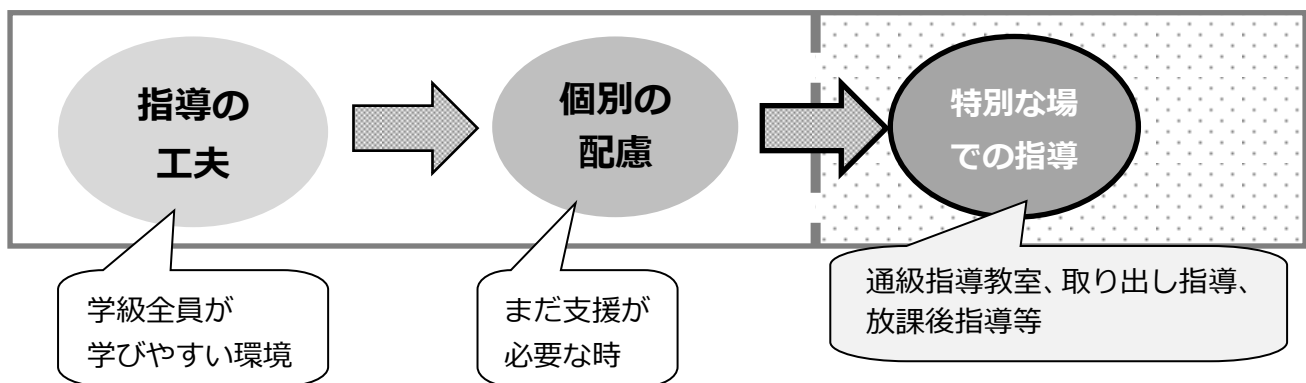
教師の説明、手順を詳しく聞いて分かった子

とりあえずやってみて、経験から分かった子

**「子どもたちがどのように学んでいるか」に向き合う必要があります。**

### (b) 多様性に応じた授業づくり

子どもたちの多様な学び方に応じるためには、次のような考えが重要になります。



(c) すべての児童生徒が学びやすい授業づくり

すべての児童生徒が学びやすい授業づくりには、次のような視点があります。

例

① 学びやすい環境

- 学ぶ土台となる教室環境を整えることで、子どもたちは集中して学習に取り組むことができます。

② 学びのルールが明確な授業

- 授業中のルールを明確にし、徹底することで、子どもたちは安心して学習に取り組むことができます。

③ 学ぶ内容が明確な授業

- 学ぶ内容を明確にし、目的意識をもてるように仕掛けることで、子どもたちは学習を追究しようとする意欲をもつことができます。

④ 学び方が選べる授業

- 自分の得意な学び方（見て学ぶ・聞いて学ぶ・体験して学ぶ等）を選択できるようにすることで、子どもたちは学ぶ内容をより深く理解することができます。

⑤ 子どもたちが学び合える授業

- 授業の展開に応じて話し合いの場を設けることで、子どもたちは自身の力で学びを広く、深くすることができます。

支援や配慮が必要な児童生徒を意識して取り組んだ学級全体への工夫が、結果として全体の学びを深めることにつながります！



気をつけたいのは、「授業の手法」だけにとらわれないことです。  
大切なのは、授業中の子どもたちの「学ぶ姿」をしっかり見つめ、振り返りながら授業を考えていくことです。

教師が教える授業から、子どもが学ぶ授業へ

\* 詳しくは☆『多様性を認め合う学級・授業づくりのためのコーディネートアイディア（例）』（48p）をごらんください。

## ☆ 多様なものの見方・考え方



「多様性を認め合う」ことに関する演習ってあるの？

学級づくりでの演習などは、様々な参考となる本が出ています。当センターでは、ある高校で実践した内容を紹介します。

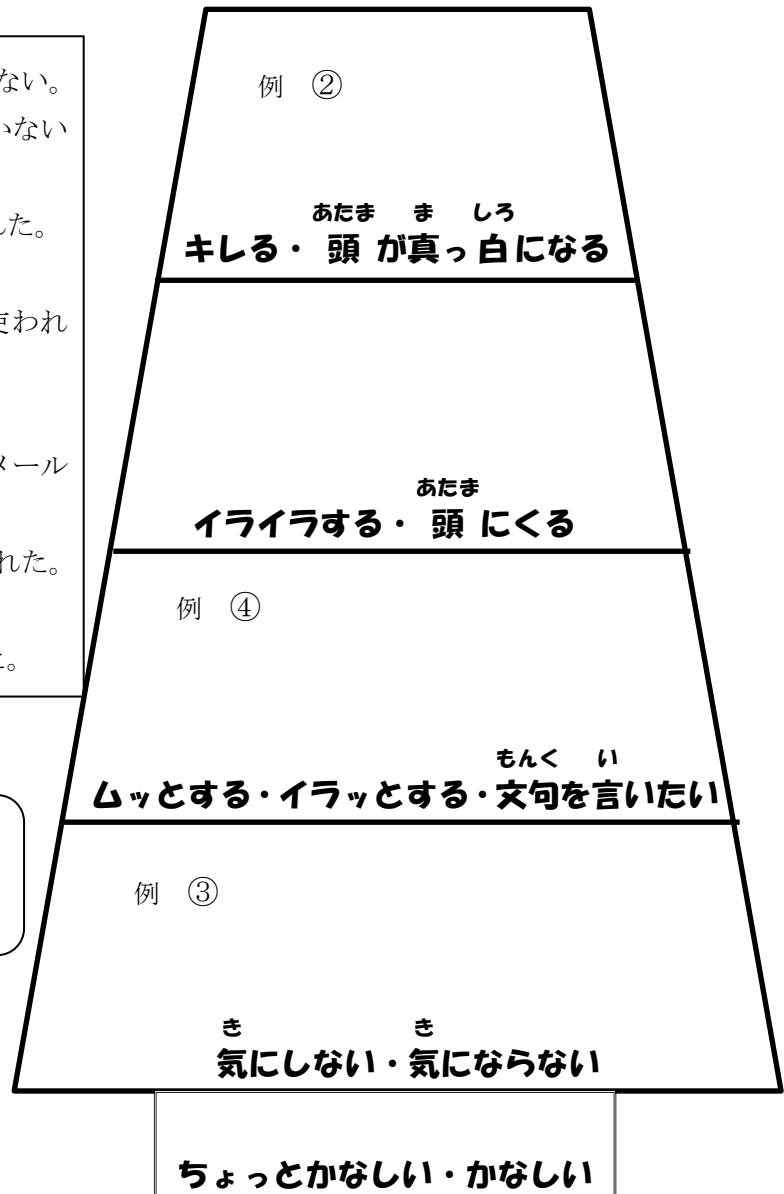


下記の①～⑩に関して、右図のどの段階に当てはまるか、番号を書いてください。

図 感情のタワー

- ① 友だちにあいさつをしても返されない。
- ② 「君のせいだよ。」と、うまく行かない時に、決めつけられた。
- ③ 親から「勉強しなさい。」と言われた。
- ④ 友だちのミスで勝負に負けた。
- ⑤ 隣の友だちに勝手に自分の物を使われた。
- ⑥ 体の特徴をバカにされた。
- ⑦ LINEで既読スルー、もしくはメールでの返信がない。
- ⑧ 何もしていないのに、見て、笑われた。
- ⑨ 好きな人に告白して振られた。
- ⑩ 友だちから「うざい。」と言われた。

隣の人と見比べてみるとどうですか？



【多様なものの見方・考え方を知ること】

この演習では、隣同士の児童生徒で見せ合うと、自分の感情だけでなく、他者の感情との違いを理解することができます。

学校で、こんなことはありませんか？

それぐらいで、なんで怒っているの？普通だよ。  
大丈夫だって… (相手が怒っている言動を繰り返す)。



ある高校生



対人トラブルに発展…



演習後のある高校生の感想



「自分が良いから相手にもやる。しかし、相手側はすごく嫌だったという経験がありました。楽しいこと苦しいこと全部含めて、自分が今まで経験してきたことを考え直させてくれるような機会となりました。少し前向きにいこうという気持ちをもっていました。」

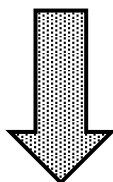
同じ言葉や行動でも、「気にしない」「イライラする」「悲しい」など人の言葉や行動に対してのもの見方・考え方(価値観)が違うことを再認識してもらうことが大切です。

【受け止めてから、必要な指導や支援を】

実は、私たちも、「それぐらいのことで…」と、自分の価値観を無意識に押しつけてしまうことがあります。

本人にとって「どれくらいか」は、本人しか知らないのです。

その点を踏まえて、児童生徒が大事にしている価値観を尊重し、認めることでどの児童生徒にとっても安心感が生まれ、教師の話も受け入れる素地ができやすくなります。



一方的に指導されることよりも、  
本人に伝わりやすくなります。



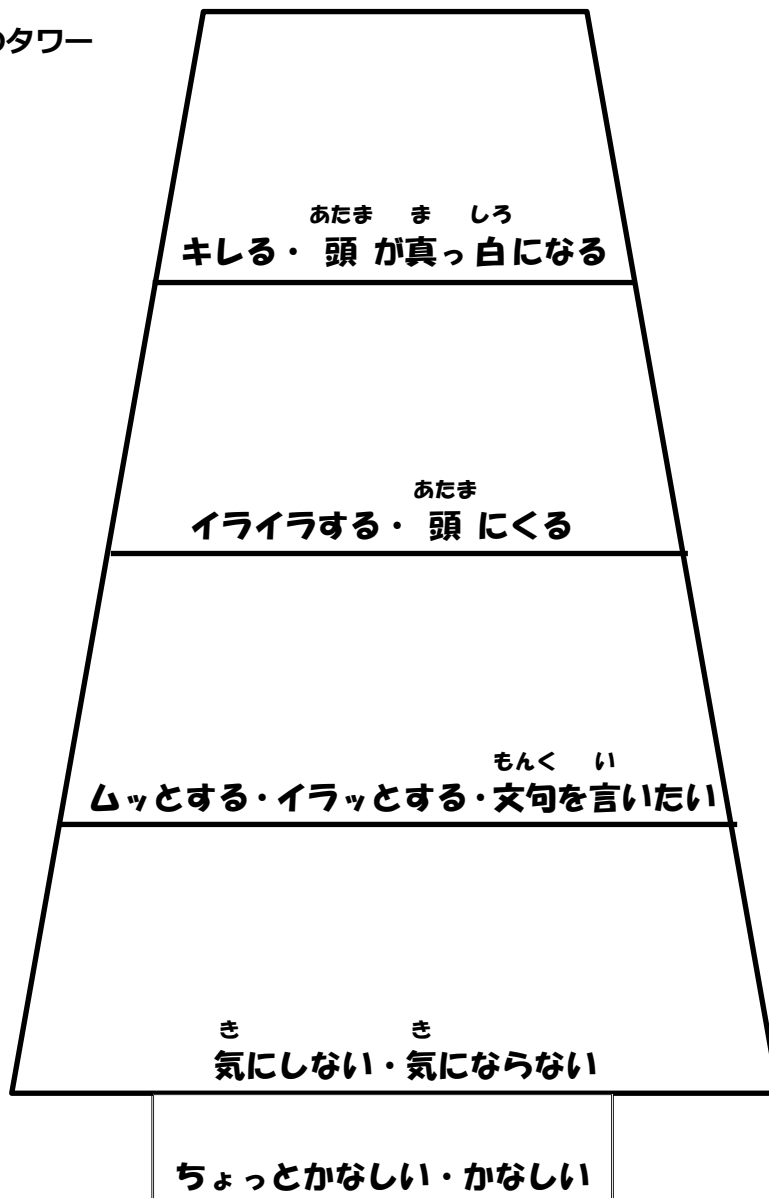
それを踏まえた上で、社会的に守るべきルールや相手に対しての言動等について、  
しっかりと指導することも必要となってきます。

多様性を認め合う学級づくりには、まず、多様なものの見方・考え方を認め合う土台が大切です。

\* 各学校、学級の実態に応じて必要項目を書き換えれば、自校の演習等でも使えます。50～51pを参考にしてください。

下記の①～⑩に関して、どの段階に当てはまるか、番号を書いてください。

図 感情のタワー

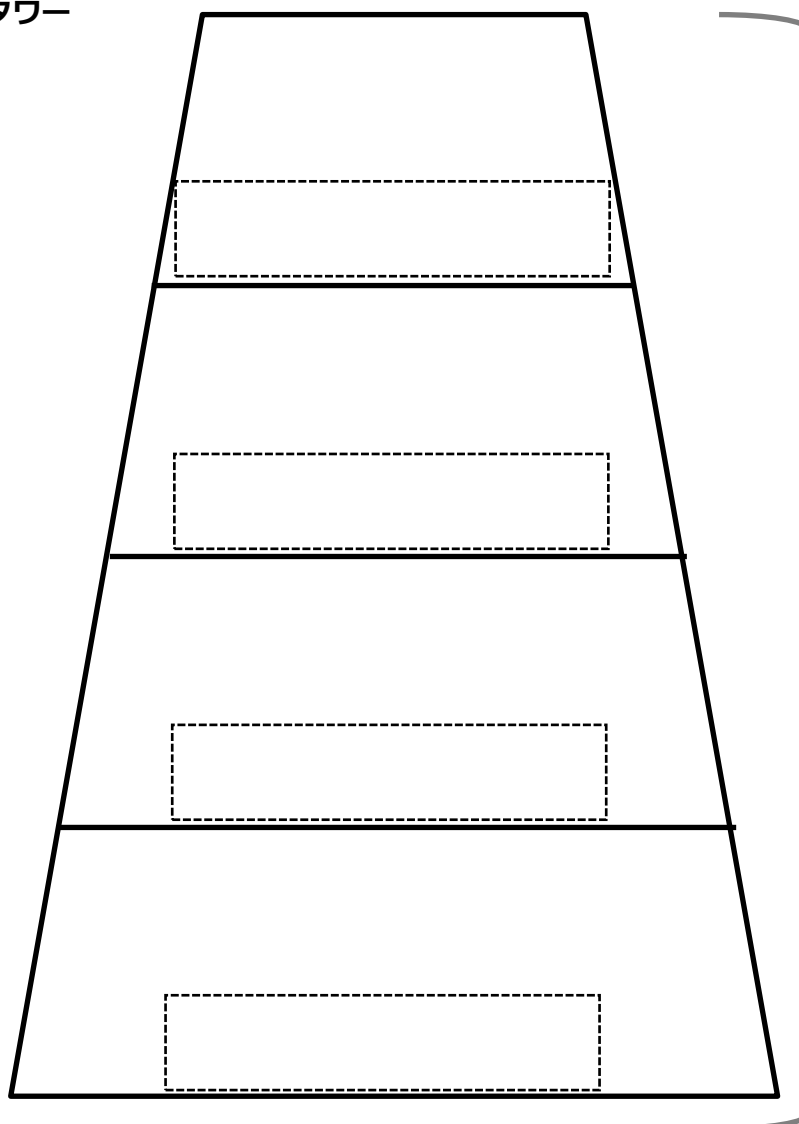


- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩



下記の①～⑩に関して、どの段階に当てはまるか、番号を書いてください。

図 感情のタワー



□ は、学校の実態に応じて、感情（喜怒哀楽）の段階を言葉にして入れて活用してください。

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩

\* ワークシートは、福島県特別支援教育センターWeb サイトから Word 版をダウンロードすることができます。  
参考：越智泰子他『授業ですぐ使える！自己肯定感がぐんぐんのびる 45 の学習プログラム』合同出版株式会社（2012）

## ☆ 一人一人が満足・納得する評価

こんなことありませんか？

【注意する時】

話を聞きましょう！



【ほめる時】

A君、勉強頑張っているね。



A君

「なんで俺だけ！」「僕だってやっているよ。A君だけ、ちょっとしたことでほめられる。」…  
こうした不満はなぜ出てくるのでしょうか？

学級でこんな不満、口に出されたことありませんか？



〇〇さんばかり、ほめられてずるいわ。



〇〇さんばかり、えこひいきしている。

〇〇さんだって、やってるじゃないか。  
なんで俺だけ注意されるの？



同じことをしてるのに〇〇さんはよくて、  
私がだめなのはなぜですか？

なぜ、子どもは不満に思うのでしょうか…

**それは、教師の評価の基準が、子どもたちに伝わっていないからです。**

子どもたちは、注意される、ほめられることに関して、とても敏感です。前ページの対応はよくあることで、対応も間違っていない。ただ、教師の言葉に対して、学級の子どたちが、なぜ「注意されるのか」「ほめられるのか」の基準を理解していないことが原因となっている可能性があります。



では、どうすれば…

**最初に学級での評価の基準をはっきりと宣言！！**

例

この学級では、自分の力を伸ばした人、伸ばそうと努力した人をほめます。逆に、自分の力があるのに力を伸ばそうとしない人、使おうとしない人には、注意します。



担任

【こんなことを言われたら…】



Bさん

〇〇さんばかり、ほめられてずるいわ。

例

できたか、できないかではなく、〇〇さんは、〇〇さん自身の力を伸ばしたからほめているんですよ。Bさんについても同じですよ。Bさんが、自分の力を伸ばそうと努力しているのを知っていますよ。応援していますよ！



担任



C君

〇〇さんだって、やってるじゃないか。なんで俺だけ注意されるの？

\*自分だったら、何と答えますか？



物事を「できたか・できないか」で評価するだけでは、すべての子どもの頑張りに対応できません。本人の力が「伸びたか・伸びていないか」で評価することをしっかりと学級に示すことで、子どもにとって「注意されても」「ほめられても」、自分のことなので納得することにつながります。

## ☆ 学級全体への配慮

～ちょっとした振り返りシート～



学級全体への工夫・・・  
何を行えばいいのか悩みますよね。  
現状をチェックした後、できる所から始めましょう。

### < 学びやすい指導の工夫 >

#### 1 聞く姿勢を作る

- 静かになってから話す習慣
- 分かりやすい短い発問
- 一つの指示で一つの活動

#### 2 授業の構成

- 活動の流れを文字や図で視覚化 (あとどのくらいかが分かるように)
- 活動のパターン化 (例: 「聞く」→「見る」→「考える」→「書く」→「発表する」)
- 活動時間を短く (テンポが良い授業)

#### 3 発表・指名のしかた

- 発表の仕方のルール化 (騒いでも指名しない)
- 話し方の手順を決めて提示
- 子どもの言いたいことを察知し、話した内容を繰り返し言葉で説明
- 子どもの発表しようとした姿勢の称賛

#### 4 ノートの指導

- 板書の工夫→文字の大きさ、量、色を意識して書く、写す部分を明確に
- 書きやすいノートを準備 (マス目、横罫)
- ノートの使い方の丁寧な指導 (マス目黒板、実物投影機の活用等)
- ノートの取り方は教科によってパターン化

#### 5 集中して視写する

- 書くときは一斉に視写 (机間巡視、指導が可能になる)
- どこまで書くかの明確化 (子どもに応じて)

#### 6 教材・教具の工夫

- 写真や絵など視覚に訴える教材
- 実際に操作できる教材
- 見やすく書き込みやすいプリントの準備
- 九九表やローマ字表などの支援ツールの準備 (誰でも使えるようにする)
- 実態に応じて、それぞれが使いやすい道具の準備

## < 学習環境の整備 >

### 1 教室環境の整備

- 整理された教室 (備品、掲示物など)
- 学級の物と個人の物の区別化
- 個人の持ち物の整理、管理 (落とし物など) の徹底
- プリント類の保管→ノートに貼る、綴じる (作業時間の確保)

### 2 座席の配慮、学習形態の工夫

- 子どもの特性に応じた座席 (一番前がいいとは限らない)

### 3 学級のルールを決める

- 明確なルール (みんなで共有できるルール)
- 叱る基準を明確化 (なぜ叱られたか分かるように)
- ルールが守られたら必ず称賛
- 守る手本は先生からという意識

### 4 分かりやすい指示

- 具体的で簡潔な指示
- 学習のめあては始めに確認
- 指示の一貫性
- 指示のタイミング (子どもが活動している時は指示をしない)

### 5 見通しをもって生活する

- 予定の視覚化 (1日の予定、学年だより、学級だよりの活用、行事黒板の活用)
- 変更点の確認 (変更点は言葉を添えて丁寧に)

### 6 必要な物を忘れない工夫

- 早めの連絡
- 子どもがメモをとる習慣の育成 (本人が忘れない工夫のために)
- 子どもが忘れた時の対応 (対応できるよう、教師側で準備しておく)

自由メモ欄

☆ **学びやすい環境を整えて、集中力アップ**  
～自分の教室環境を振り返ってみませんか～



まずは、授業中の子どもたちの目線で、教室  
を見てみましょう。

何に気をつけて、環境を整えればいいのか？



**どっちが集中しやすい？**



自分が勉強している時、ふと、本棚の本など、気になることはありませんか？  
どちらが、目の前の教科書に集中が続きますか？



児童生徒によっては、「注意の選択」がうまくいかず、今、見るべき対象に注意を向けるのが苦手なことがあります。

**集中して取り組むための刺激（掲示物等）の調整**



【黒板周辺の刺激を調整】  
黒板周りをすっきりさせることで、黒板に集中！



【移動黒板での情報調節】  
必要な時以外は、移動して視線に入れない。授業に集中！！



【掲示物もしっかり止める】  
掲示の端がピラ～。気になることも…。止めると気にしない！



ある学級の担任は、子どもが授業中に発表している時、子どもの席に座って聞くことがあるそうです。それは、子どもたちにとって、板書や黒板周りなど、気になる物がないか確認するためだそうです。

また、掲示物だけでなく、音の刺激（校庭、廊下、水槽、話声等）を確認することも大切です。

指示がなくても片付け、整理できる環境



【片付け場所の色分け】

園児たちが、自分のグループの色と同じ色枠の中にイスを片付ける。スムーズな片付けが、活動の時間を増やします！



【写真を使った片付けの見本】

片付けが得意になることで、道具を探す時間がなくなり、活動時間が増えます！



【カゴを使って提出物の整理】

どこに出すかが分かるので、迷わずに提出できます！

どこに片付けるか、提出するか、明確に分かることで、教師の指示がなくても行動できるようになり、その分、授業の内容に集中することができます。



授業に入る前に、自分の教室環境をちょっと振り返って書いてみましょう。

振り返りの観点は二つ！！

○集中できるか？気になるものがないか？

○指示がなくても片付け、整理できる環境か？



校内には、教室環境を整えることが上手な先生がいます。落ち着いて学習できる環境は、学力向上の基盤です。

## ☆ 授業中のルール、明確になっていますか？

～子どもが安心して授業に向かうために～

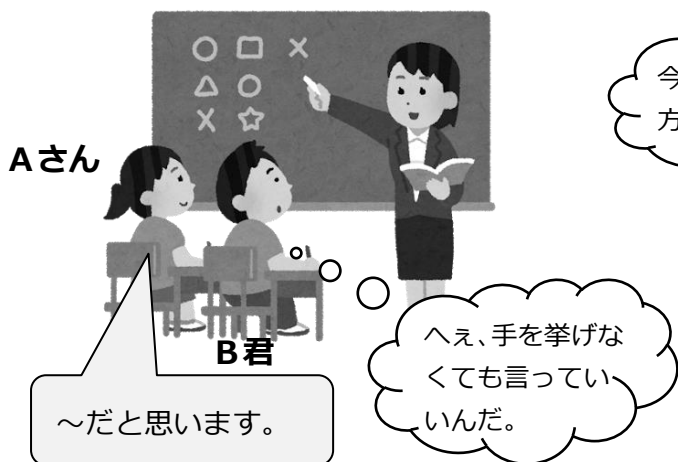
勝手に発言する子がいて困っているんですが…

勝手に発言する背景には、本人の障がいによる困難さが関係していることもありますが、まずは、自分の学級の発言のルールが明確になっているか、他の児童にも徹底されているかを考える必要があります。

### こんな例があります

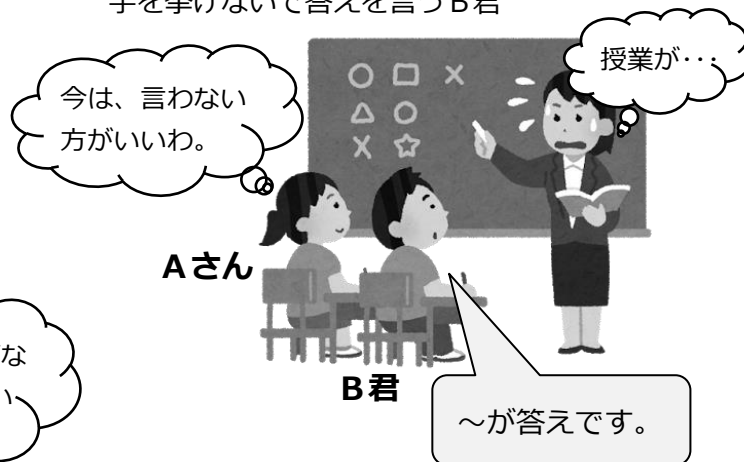
#### ①パターン

教師は発言を求めて「どうですか?」と言い、手を挙げないで答えたAさん



#### ②パターン

教師は発言を求めていない流れで「～どうですか?」と全体に問いかけ、次に進もうとした所、手を挙げないで答えを言うB君



場の空気を読んで行動するAさんに対し、それが苦手なB君のようなタイプがいます。B君のようなタイプは、学級で当たり前とされている暗黙のルール等が分からないことがあります。そんな児童生徒からすると、時と場合によって、自由な発言が許されたり、許されなかったりして、先生から意味も分からずに叱られたという印象だけが残ってしまいます。

**個別の配慮や支援を考える前に、  
まずは、学級全体の授業中のルールを明確に示すことが授業の基盤となります。**



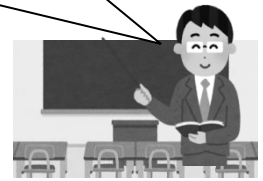
【どんな授業中のルールが必要ですか？】

平成 29 年 4 月に出された『ふくしまの「授業スタンダード」』の中では、次のように述べています。

学習規律について、発達の段階を踏まえて共通実践することが大切です。

- 学習に臨む心構えや約束事を指導する。
  - 宿題や学習用具を忘れない。
  - 始業前に学習用具を準備する。
  - 指名されたら返事をする。
  - 1 分前着席をする。                    など
- よい話し手、よい聞き手を育てる。
  - 相手意識や目的意識をもつ。
  - 声の大きさ、速さ、目線に気を付けて話す。
  - 話をしている人を見て共感的な態度で聞く。
  - 必要なことはメモをとる。            など

学校や学級によって、特に大切にしたいことがあると思います。明確に児童生徒に示すことが大切です。



【学級の実態によっては、こんな授業中のルールを示す例もあります。】

暗黙のルールも、明確にして示すことで、子どもにとって分かりやすくなります。いったん定着したらルールの掲示を外します。

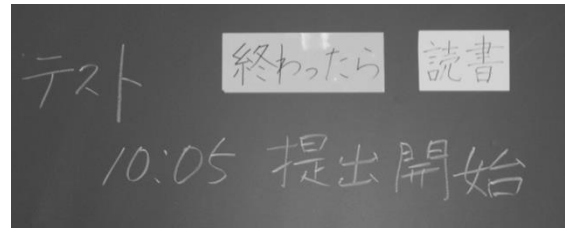
分からない時にどうするのか、しっかりとルールにして伝えておくと、子どもも安心して、学習に臨めます！

\*当センターWebサイト教材・支援機器ポータル実践例「学習学習でつまずく児童に対して、学級でできる配慮」より

一つの課題が終わった後に、子どもたちからの「先生！どうすれば・・・」の質問ラッシュを避けるために、活動の順番を明確にし、見通しを持たせます。



課題が終わった後に、自主的に自分にあった課題を選び学習する例



「提出開始」と時間と行動を明確に示し、終わった後の行動も示した例

## ☆ あなたの授業中のルール教えてください

### 「自分の授業中のルールは？」

自分の授業中のルールについて振り返って、書いてみましょう。



授業中に、特に大切にしているルールについて

他のルールについて（話を聞く時、指名する時、学び合う時、分からない時…等）

ルールを作る上で大切にしていることは何ですか？

メモ：他の先生から学んだこと、参考になったルール

まずは、校内の先生に聞いてみよう！！  
ヒントがあるかも！！





## ☆ それぞれの「学び方」



「学び方」って言うけど、みんな同じじゃないの？何が違うの？

### 自分の学習スタイル\*<sup>1</sup>をチェックしてみましょう！

自分が当てはまる所にチェックしてください。当てはまった項目数が多いところが、自分の「学び方」である場合があります。\*あくまでも参考です。

#### タイプ A

- 静かなところで勉強するのが好き。
- 何回も詳しく書いて覚える方だ。
- 文章をじっくり読んで内容を理解するのが好き。
- 見直しはしっかりする。
- ノートはきっちりと書き、分かりやすいと言われる。



#### タイプ B

- 音声学習で英単語などを効果的に覚えられる方だ。
- 本を読むより、セミナーに出席した方が理解できる。
- 初対面の方は、顔より話した内容をよく覚えている。
- メールより電話が好き。
- 電化製品の使い方は、説明書を読むより、人に教えてもらった方が覚えられる。



#### タイプ C

- 体を動かしながらの方が、暗記できる。
- 音楽やラジオを聞きながら勉強するのが好き。
- 音楽を聴くと、自然に体が動く。
- なんでも自分でやってみないと気がすまない。
- 電化製品など、説明書はよく読まず、直接動かしてみる。



参考：高山恵子・品川裕香『LD・ADHD・アスペルガー症候群 気になる子がぐんぐん伸びる授業』小学館（2006）

### チェックしたら、近くの人と見合ってみましょう！

\* 1 学習スタイルについては、様々な視点から考えることができ、このページで紹介しているのは、あくまでも一例です。

【どのタイプに多くチェックが付きましたか？】

チェックが多かったタイプは、次のような特徴があるとされています。

\*あくまでも参考です。

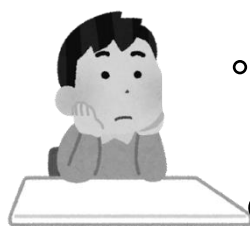
タイプ A→視覚型	タイプ B→聴覚型	タイプ C→体得型
目で見えて情報を理解したり覚えたりするのが得意	耳で聞いて情報を理解したり覚えたりするのが得意	実際に体を動かして理解したり覚えたりするのが得意
<b>支援方法例</b>	<b>支援方法例</b>	<b>支援方法例</b>
<input type="checkbox"/> 簡単な言葉で簡潔に、ゆっくり、はっきり伝える。 <input type="checkbox"/> 絵や図、見本を示して伝える。 <input type="checkbox"/> 手本を見せる。	<input type="checkbox"/> 言葉で説明を加える。 <input type="checkbox"/> 一つずつ順番に話す。 <input type="checkbox"/> 覚えることは、しっかりと意味づけをする。	<input type="checkbox"/> 簡単な言葉で、分かりやすく伝える。 <input type="checkbox"/> 具体物を使用する。 <input type="checkbox"/> 手本を見せ体験させてみる。

参考：高山恵子・品川裕香『LD・ADHD・アスペルガー症候群 気になる子がぐんぐん伸びる授業』小学館（2006）



同じ質問項目でも、タイプがいろいろと分かれたと思います。それだけ、人によって学び方が違うことをまず認識することが大切です。

【自分の学び方を相手に求めてしまった失敗例から考える】



聴覚型のA君

「とりあえず、やってみると覚えるよ。」



体得型の先生

やり方を一つずつ順番に、繰り返し教えてくれないと、僕は分からないなあ。

A君が力を最大限に発揮できるのは、どのような学び方でしょうか。



教師が、自分の成功体験（学び方）が良いと思って、相手に合わない学び方で働きかけてしまうことがあります。児童生徒にとって、学び方を選ぶことができ、自分なりの方法を使ってアプローチし、考えることができる授業\*<sup>2</sup>が大切です。

参考：青木清『脳と行動—ニューエソロジー』朝倉書店（1986）

\* 2 詳しい実践例は第Ⅱ章-1(3)⑧『「学び方」を選ぶ学習の実践例』（64p）をご覧ください。

## ☆ 「学び方」を選べる学習の実践例

それぞれの学び方があることは、第Ⅱ章-1(3)⑦『それぞれの「学び方」』(63P)で分かったけど、じゃ、どうやって指導すればいいの？



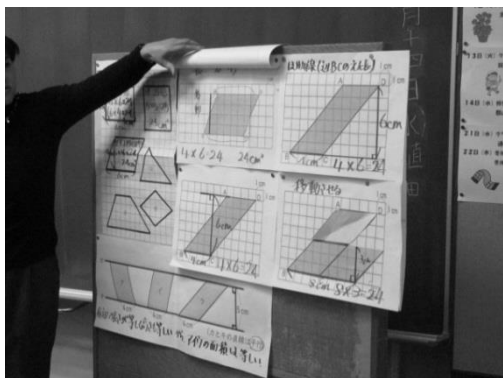
学級全員の学び方が違うことを前提として、あらゆる角度から「学び方を自分で選択できる授業内容のしかけ」を用意しておく、理解の深まりがスムーズになります。

「学び方」の例として第Ⅱ章-1 ☆⑦『それぞれの「学び方」』(66P)で紹介したタイプ

タイプ A→視覚型	タイプ B→聴覚型	タイプ C→体得型
目で見て情報を理解したり覚えたりするのが得意	耳で聞いて情報を理解したり覚えたりするのが得意	実際に体を動かして理解したり覚えたりするのが得意

### <実践例の紹介>

教材との出会い

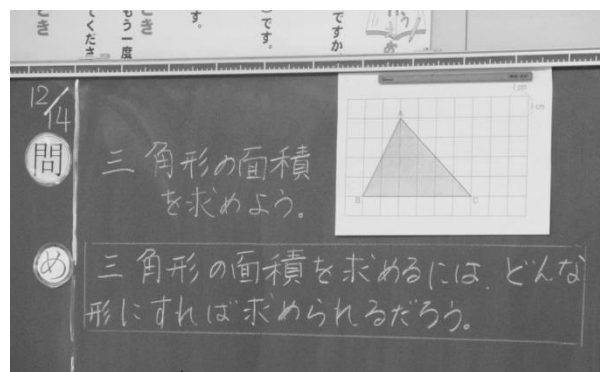


- ・ 繰り返し聞いて覚える子ども
- ・ 図を見て覚える子ども
- ・ 具体的な操作を思い出して覚える子ども

**学び方を選べる**

既習事項が確実に定着し、次の学習につなげることができます。

学習課題の把握

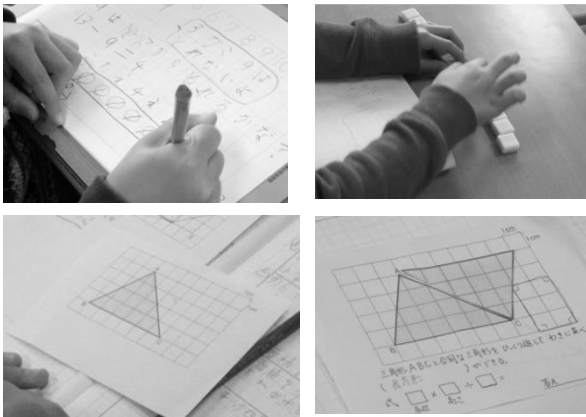


- ・ 問題を聞いて考える子ども
- ・ 絵や図から考える子ども
- ・ その両方を使って考える子ども

**学び方を選べる**

問題を理解し、深めていくことができます。

個での追究・解決

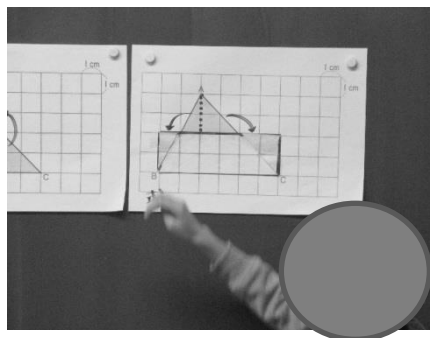
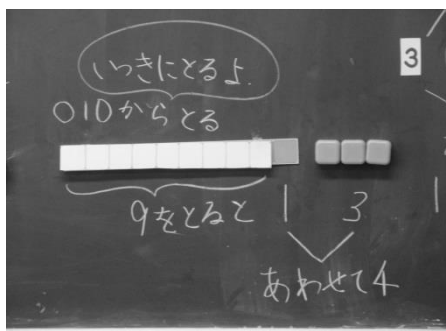


- ・図や絵を見て考える子ども
- ・具体物を操作して考える子ども

**学び方を選べる**

自分なりの手がかりで、思考の深まり、理解の深まりを手助けします。

学級全体での追究・解決



追究・解決の際にも、話す、見る、操作する、といった活動を組み合わせて発表を促すことで、それぞれの理解のポイントが含まれ、より学級全員の学びの理解が深まります。

【授業の基盤の一つとして】

それぞれの「学び方」を用意し、子どもたちが選択できる授業は、必然的に理解が深まり、より活発な学び合いの授業を展開することができます！なお、平成29年4月『ふくしまの「授業スタンダード」』の中で、授業の基盤として、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりに努める。」としています。

ただ、毎時間、全てを用意して、丁寧に行うことは難しい！！ですよね。  
だからこそ、シンプルに

- チョーク一本でできる視覚的な支援（色分け、図示等）
- 写真が多い資料の積極的活用
- 授業中の発問の工夫、短い指示、復唱、要点の繰り返し
- 身近な具体物を用いた操作的活動

今あるもので、できること・・・工夫してみませんか？



子どもたちが取り組む演習シート 対象：小（高学年）・中・高

## ☆ 自分が得意な勉強の仕方を知ろう！！

自分がどのように勉強したら、より覚えやすいか、わかりやすいかを考えてみよう！自分に合った勉強の仕方がわかると、勉強がおもしろくなるよ。



【自分の勉強の仕方を考えてみましょう。】

- 下のA～Dを読んで、それぞれ当てはまる項目（◎～×）に○をつけましょう。Eについて、ある場合は書きましょう。

**A：見て覚える・考えるのが得意** ◎とても得意 ○まあまあ得意 △ちょっと苦手 ×苦手

例えば・・・教科書を見て、どこに何が書いてあるか分かる。先生や友達のやり方を見ると、分かる。本を静かに読んで覚える。

**B：聞いて覚える・考えるのが得意** ◎とても得意 ○まあまあ得意 △ちょっと苦手 ×苦手

例えば・・・人の話や説明が印象に残る。繰り返し言われることで覚える。説明を順番に聞いた方が分かる。

**C：字を書いて覚える・考えるのが得意** ◎とても得意 ○まあまあ得意 △ちょっと苦手 ×苦手

例えば・・・漢字や英単語、歴史の人物など、ひたすら書くことで手と頭で覚える。とりあえず授業中にメモをたくさんとって覚える。

**D：絵や図をかいて覚える・考えるのが得意** ◎とても得意 ○まあまあ得意 △ちょっと苦手 ×苦手

例えば・・・絵や図に整理すると関連がわかり覚えやすい。キャラクターの名前を覚えるのが得意。資料集などの写真が多い方が好き。

**E：その他** ( )

- 印をつけた項目を参考に、自分の勉強しやすい順番（1～4）を考えてみましょう。



私の勉強しやすい順番は

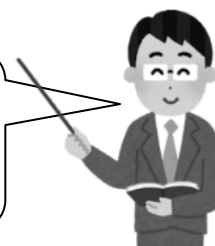
1 \_\_\_\_ → 2 \_\_\_\_ → 3 \_\_\_\_ → 4 \_\_\_\_ → 5 \_\_\_\_

わかったこと・これからの勉強で生かすこと



【先生向けの資料です。】

子どもたちは、自分に合った勉強法を知らないままにいます。自分がどうやったら分かりやすいかを知ることは、自分にとって覚えやすい、理解しやすい自主学習にもつながります。



### 学び方に合った自主学習の例

見て学ぶのが得意…教科書を黙読 or 音読 5回

書いて学ぶ・絵や図を描いて学ぶのが得意…資料集を参考にまとめる。書く量を増やす。

聞いて学ぶのが得意…CD等を有効に使う。家庭で読んでもらう or 自分で読んで耳から情報を入れる。

通常の学級で学力を向上させたある先生の言葉



どうやったらわかる？

ある先生は、学級の子どもたちの一人一人の学び方に着目し、授業を進めていました。例えば、話しても、読んでも理解がしにくい生徒たちには、映像で歴史上の人物を教えるなどの工夫の結果、学級全体の学力を短期間で向上させることができたそうです。

【「新たな学び」をより促進するために】

平成 29 年 4 月『ふくしまの「授業スタンダード」』の中では、次のように述べています。

「新たな学び」を促すために

- 学びの連続性を大切にします。
  - ・「課題→追究→解決→新たな課題→追究…」という学習の過程
  - ・「授業→家庭学習→(朝の学習)→授業…」という学習サイクル



子どもたちは、自分の学び方(勉強の仕方)が分かり、自分に合った学び方を身に付けることで、自分にとっての「新たな学び」をより促進させることができます！